

12. 生物資源産業学部

(分析項目Ⅰ 教育活動の状況 29)

(分析項目Ⅱ 教育成果の状況 30)

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

教育活動の基本的な質を実現している。

〔特色ある点〕

- 経済・経営分野の充実は、生物資源産業学部の特徴の一つであり、「経済・経営科目」として 11 科目 20 単位を開講し、そのうち 16 単位が必修科目である。さらに「起業体験実習」「アグリビジネス起業論」「商品開発プロジェクト演習」は起業を具体的に視野に入れた科目である。これらに加えて、地域の企業等での 15 日間のインターンシップを必修として課しており、このような実践性の高いカリキュラムを通じて産業創出の担い手となる人材の育成を図っている。
- 教員のほとんどがインターンシップを担当していることも生物資源産業学部の特徴であり（専任教員の 84%）、受け入れ先の数の増加と内容の充実を目指すため、各学期に教員が官公庁・企業等への訪問を実施し、受け入れの要請や内容の吟味を行っている。インターンシップは、課題解決型と自由応募型に分かれ、課題解決型では毎年報告会を実施しており、参加者は強い責任感を持ってインターンシップに取り組んでいる。また、報告会は対象学年以外にも広く参加できるようにしているため、学生の参加意欲を引き出す方法の一環となっている。
- 「鉄は熱いうちに打て」（SIH：Strike while the Iron is Hot）の精神に則り、反転授業、グループワーク、学修ポートフォリオ、専門領域早期体験などによるリフレクションを基盤としたアクティブ・ラーニングの体験を通して、学生と教員が共に学び合い成長する科目「SIH 道場ーアクティブ・ラーニング入門ー」を実施している。
- 生物資源産業学部専門科目のアクティブ・ラーニング導入率は、80%前後で推移している。毎年シラバス作成時にアクティブ・ラーニングを導入した授業計画実施依頼を行っており、導入率のさらなる向上を図っている。また、生物資源産業学部ではラーニング・ポートフォリオを導入し、学部 FD 集会を通じてその有効な活用を教員に促しており、教育の質の向上に努めている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

〔判定〕 相応の質にある

〔判断理由〕

現況分析単位の目的に沿った基本的な教育成果が認められる。

〔特色ある点〕

- 令和元年度に卒業年次学生を対象に実施したアンケートの結果に基づいて、教育目的の達成度を評価した。ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力の達成度はいずれも9割以上が肯定的回答であり、教育目的が十分に達成できているといえる。一方、研究、教育、交流活動についての満足度は、生物資源産業学部の特徴1に関連するアンケート項目「学習意欲が湧く授業が多かった」「語学教育に満足している」「専門教育に満足している」ではいずれも肯定的回答が9割以上であった。